

平成16～18年度執行状況と19年度予算編成概要

配当額は減少し続けていますが、総額裁量予算制度が導入され、消耗品費や備品費、修繕料などの枠にしばられずに学校の創意工夫に基づいて、予算編成ができるようになりました。

子どもたちの充実した学校生活を保障するため、毎日の学習用教材費や生活用品費、施設設備の維持管理費を確保しつつ、教育条件向上のための教材教具や管理用備品の整備・更新ができるようバランスのとれた予算計画・執行が重要となっています。

<平成19年度の状況>

- 配当予算の減額に対応するため、管理的な消耗品費の大幅な減額に努力してきましたが、本年度は児童生徒数増への対応や、防災備蓄品の更新のため増額を見込まざるを得ない状況になっています。
- 備品費は、教育条件の向上に必要な経費ですが、消耗品費や修繕料を確保するため年度当初予算案では圧縮せざるを得ません。
- 年度を通じて適切な予算執行管理をしていく中で、管理費等の節減をし、教材備品の充実や事務用機器の更新などを図っていきます。

<主要費目別の16～18年度当初予算執行額と19年度予算編成>

	16年度執行額	17年度執行額	18年度執行額	19年度予算額
消耗品費	8,261,917	8,134,243	6,370,868	7,674,000
備品費	3,739,404	2,938,675	2,662,539	1,300,000
修繕・修理費	1,243,095	1,895,376	2,363,015	1,800,000
その他	1,330,843	486,953	977,957	972,000
執行額合計	14,575,259	13,455,247	12,374,379	11,746,000

※ 洗濯等外部委託費用1,512,000円は除いています。

各年度主要費目別執行額の推移

